

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 1 －
重点項目	学習活動	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進、改善。	
現 状	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業が実践され、生徒にも少しずつ浸透してきている。今後は、さらに生徒が協働して学ぶことができる環境作りを目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てること（授業の質）が課題である。	
達成目標	「主体的・対話的で深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答をすべて80%以上にする。	
方 策	<ul style="list-style-type: none">・全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。・「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。・タブレットを効果的に使用した授業の実現に積極的に取り組み、ICT教育の推進に努める。・コロナ禍でできなかったグループ(ペア)活動にも積極的に取り組み、より対話的で深い学びを目指す。	

令和5年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 2 －
重点項目	学校生活	
重点課題	規範意識の高揚と自己指導能力の向上を目指す ～携帯電話・スマートフォン使用に関する生徒の主体的な取り組み～	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・家庭での携帯電話（スマートフォン）の使用時間が長く、昨年度のアンケート結果から家庭で3時間以上の使用が全校生徒の約45%となっている。携帯電話（スマートフォン）の長時間使用で生活が乱れ、体調を崩す生徒が見受けられる。・携帯電話（スマートフォン）の校内ルール違反件数が、令和2年度は34件、令和3年度は25件、令和4年度は19件であった。本校では、「携帯電話持ち込み許可願」を提出し、電源を切って鞆に入れる約束で携帯電話の持ち込みを許可し、保護者と緊急に連絡を取りたい場合のみ、指定場所での使用を認めている。しかし昼休み、放課後などに教室、部室などで使用している生徒がいる。また、毎年、1年生の違反件数が多い。	
達成目標	① 帰宅後（平日）の携帯電話等（スマートフォン）の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合70%以上とする。	② 携帯電話（スマートフォン）の校則違反のべ件数を15件以下にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none">・統一ホームルームで生徒に学校ネットルールを考えさせ、自主的・主体的に携帯電話（スマートフォン）を使用する態度を身につけさせる。・家庭でのネットルールを決めるよう、保護者懇談会などで呼びかける。・外部講師を招き、「携帯電話ネットトラブル防止講話」を1学年で実施する。・携帯電話（スマートフォン）の使用が、インターネット依存症、いじめ、見知らぬ人との出会い、生活リズムを崩す要因になることなどを、学年集会・全校集会で周知し、規範意識を高める指導をする。・STやHRで担任から携帯電話の校内ルールを何度も呼びかける。・各学年、生徒指導部の職員で昼休みに教室・学校内を巡視する。・校風委員・生徒会が中心となって、携帯電話の使用について注意喚起を行う。	

令和5年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		- 3 -					
重点項目	進路支援						
重点課題	より高いレベルでの進路実現の促進						
現 状	(1) 昨年度卒業生の9月進路希望調査時の第一志望と実際の進路決定状況は下の表の通りで、校種別の第一志望達成は146名中121名の約83%であった。一昨年に比べ、9月志望時に四年制大学を志望する生徒の割合が増えたが、最終的に短大や専門学校に進学する生徒が増加した。						
	9月志望	大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	志望計
	大学	93名	9名	8名	4名	0名	114名
	短大	1名	10名	1名	0名	0名	12名
	専門	0名	1名	17名	0名	0名	18名
	就職	0名	0名	1名	0名	1名	2名
	進学先計	94名	20名	27名	4名	1名	146名
達成目標	(2) 昨年度卒業生における国公立大学学校推薦型選抜の結果は、出願12名、合格10名、合格率83%であり、ここ数年で最も高い割合であった。大学入試における学校推薦型選抜の割合は増加傾向にある。また、国公立大学の総合型選抜についても研究していく必要があると考える。						
	(1) 9月実施の進路希望調査における校種別の第一志望において、80%以上の生徒が目標を達成すること。(高い目標を掲げた生徒への進路支援) (2) 国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜の合格率75%以上を目指す。						
方 策	①学年との連携 ・進路講話や学年集会などを通して、進路意識の高揚や学習意欲の向上を図る。 ・3学年の進学指導方針の立案・計画・実施の支援を積極的に行う。 ②進路指導委員会の活用 ・進路指導の問題点を把握し、とるべき方策を学校全体の共通理解として提示し、問題解決を図る。必要に応じて他の分掌とも連携する。 ③学校推薦型選抜指導の充実 ・学年外の教員も含め、全教職員協力のもとで指導に当たる。 ・使用テキストや指導方法を記録・保存し、有効な指導法を次年度の指導に生かす。						

令和5年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		- 4 -	
重点項目	学校行事や地域活動への積極的な参加を促す		
重点課題	今年度より、感染防止への十分な配慮を継続しつつも、学校行事や地域活動が以前のように行われるようになると期待している。そこで、コロナ禍以前の活動をそのまま行うだけでなく、ICT機器を活用したりするなどの新しい形で、学校行事や生徒会活動、地域との交流をより活発に行う。そして、様々な活動を通して、充実した高校生活を送らせるとともに、人間的な成長を図る。		
現 状	・昨年は、高啼祭を一般公開したり、100周年の記念行事を行ったりと大きな行事が無事行われた。しかし、体育大会や球技大会など学校行事は、活動の制約や縮小があるなかで行われた。学校行事は生徒にとって、充実した高校生活を送り、学校生活にメリハリと活気をもたらす良い機会となっている。その中でも、高啼祭のクラス動画では、ICT機器を活用した生徒の創造活動の可能性を感じることができた。 ・また、ボランティア活動も徐々に増えており、昨年は、12のボランティア活動に、延べ127名が参加した。福祉コースでは、昨年も社会福祉施設とリモートでの交流を数回実施し、ICT機器を利用した活動の幅を広げている。今後はさらに、地域活動への参加の機会が増えると考えられる。		
達成目標	積極的に学校行事や地域交流を行い、その活動の生徒満足度を85%以上にする。		

方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの行事ややり方にとられることなく、新たな試みを取り入れて、今の時代にあった活動をしていく。 ・ICT機器を活用し、地域の社会福祉施設などとの交流や生徒の創造活動が活発に行うことができる環境づくりに取り組む。 ・外部団体からのボランティア依頼などを各クラスに発信し、多くの情報を生徒に提供する。
-----	---

令和5年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		- 5 -
重点項目	福祉コースの実践を生かした進路選択	
重点課題	福祉コースでは、進路実現に向けて福祉コースの学びを生かし、中学生に本校福祉コースの活動や方針を周知し、福祉を学ぶことに対する意識の高い生徒の入学希望者およびコース選択者数を増やす。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉コース選択者は素直でこころ優しく他を思いやる心を持っているが、日常生活体験・社会体験、勤労の理解が乏しく、またコミュニケーション能力が不足している生徒が多い。福祉コースでは、福祉・看護・幼児教育・障害児教育等についての実習や外部講師の講演等の体験的・協同的な活動を多く取り入れ、社会体験や勤労理解、コミュニケーション能力の伸長を図っている。 ・昨年度の福祉コース選択者の進路実績は、福祉・医療・幼児教育系進学者の割合が57%であった。また、今年度3学年の福祉コースにおいては、19名中12名(63%)が福祉系の進路を希望している。 ・昨年度の本校への推薦入試の受験者数は11名で、定員に満たなかった。本校福祉コースの魅力について、中学校に対する周知が不足しているものと考えられる。 	
達成目標	① ホームページや中学校訪問、学校説明会を利用して、福祉コースの特色を中学校の先生方や生徒たちに周知する。	② 福祉コースの生徒において様々な入試形態を利用し、社会福祉系、保育・幼児教育系、看護系、特別支援系などの上級学校に進学する生徒の割合を65%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ①専門科目の授業を通して、いろいろな職種の見学、体験を経験させる。現職のスペシャリストの人の話を聞く機会を多くする。 ②福祉コースに関する情報の発信をホームページや福祉コースのリーフレットなどを活用して充実させる。中学校訪問や学校説明会では福祉コースでの活動や学習内容、進路実績などを広く伝え、本コースについての周知を図る。 	